

# 国際交流基金研修生との交流会

国際交流基金関西国際センターの「東南アジア日本語教員養成大学移動講座(インドネシア)」の研修生30名が来学し、本学の日本人学生と交流をもちました。交流会は二部構成で、第一部としてランチ交流会とキャンパスツアーを、第二部としてインタビュ交流会をおこないました。30名の留学生が日本語ボランティアとして一緒に活動してくれました。



インドネシア交流会でボランティアをしてくれた日本人学生(藤本 賀子さん、後列右から3番目)▼

## 日本語ボランティア

藤本 賀子さん(人間福祉学部)

私が、最も印象に残ったことは、インタビュ交流会です。みなさんとても流暢な日本語で、日本語の勉強に対する熱意や意欲がひしひしと伝わってきました。「家庭」に関する質問の際には、インドネシアの家庭では、母親が一家の中心となり、社会に出ても女性の地位が高いことや、日本よりも家族や親戚同士のつながりが深いことを教えていただきました。他にも、インドネシアの生活習慣、流行している音楽や遊びなど、日本との違いを、直接当事者の方から話していただき、すごくおもしろかったです。現在も、同じ班だったインドネシアの方とたびたび連絡を取り合っています。

この交流会を通して、他国の新たな価値観や文化を発見できただけではなく、日本の素晴らしさや改善しなければいけない点にも気づくことができました。貴重な体験をすることができ、インドネシア交流会に本当に参加して良かったです。ありがとうございました。

## 日本語学習コース(現代日本文化) フィールドトリップ

12月12日に、交換留学生55名と、日本人学生ボランティア6名とで、京都へ行きました。

このフィールドトリップは授業の一環なので、デパ地下で売られている一番高いおせち料理の値段を調べて、錦市場で一番面白いと思った店の写真を撮る、和菓子作り体験で作った和菓子の写真を撮る等、5つの課題をこなしました。

25万円以上もおせち料理があることに驚いたり、伏見稲荷で「おもかる石」を持ち上げられずショックを受けたり、職人さんが作る簡単なそうに見える和菓子が、思ったようには作れず笑いがおきたり、教育的な意義も感じながら、友達と一緒に楽しむ、忘れられない留学の思い出の一コマになりました。



## ラーニング・アシスタント 活動報告

授業では、日本の時事問題についての記事を読み、発表をする留学生のサポートをしました。授業の後半では、「日本は救急車を有料化すべきであるか」についてのディベートが行われました。グループワークを中心に、資料集めなどを行い、また、留学生が作ったレジュメのチェックなどをして、留学生が安心して発表やディベートができるようにサポートしました。

今回のLAは、私にとって初めての経験でした。初めは不安もありましたが、留学生と授業を受けていくうちに、LAとしてではなく、本当のクラスメイトのようになっていきました。授業の終わりには、留学生が自信を持って日本語で発表やディベートをしている姿をみて、このLAをやって良かったと思えました。



交換留学生とLAをしてくれた日本人学生(三角理恵さん)後列右から3番目)▼

2016年度春学期日本語教育センター開講の選択科目の案内です。

### <学部留学生対象科目>

- 日本語総合演習A
- ビジネス日本語A1
- ビジネス日本語B1
- ビジネス日本語A2 (KSC)
- ビジネス日本語B2 (KSC)

### <学部生対象科目>

- 日本語教育基礎1
- 日本語教育基礎2
- 日本語教育基礎3
- 日本語教育基礎演習1
- 日本語教育基礎演習2

★上記科目は全てWebでの申し込みとなります。

【申込期間】4月1日(金) 8:50~4月4日(月) 16:50

### <大学院留学生対象科目>

- 日本語(論文作成A)
- 日本語(口頭発表A)
- ビジネス日本語A1
- ビジネス日本語B1
- ビジネス日本語A2 (KSC)
- ビジネス日本語B2 (KSC)
- 日本語(総合)

★大学院留学生対象科目の申し込みは、日本語教育センターにて受け付けます。申込期間などの詳細については、履修案内を確認してください。



日本語教育センター開講科目履修に関するお知らせ